

---

# ウルトラマンゼロ外伝 無限の宇宙

ジャッキー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ウルトラマンゼロ外伝 無限の宇宙

### 【Nコード】

N0562Z

### 【作者名】

ジャッキー

### 【あらすじ】

カイザーベリアル率いるベリアル軍との戦いを終えたウルトラマンゼロ

異世界宇宙の地球を舞台に、彼の新たなる戦いが幕を開ける。

地球に侵略の魔の手が迫る時

光の超人が降臨する

## プロローグ（前書き）

ども、作者のジャッキーです。  
結局、連載することになりました

同じく連載スタートした

インフィニット・ストラトス - 時を越えた修羅 -  
同じく連載中の

インフィニット・ストラトス 嵐を纏う狼  
ともどもよろしく願います。

プロローグBGM ウルトラマンゼロのテーマ  
プロローグED すすめ！ウルトラマンゼロ

## プロローグ

無限に広がる宇宙

そこは、地球人が知らない銀河や、生物が住む未知の世界

カイザーベリアルとの闘いを終えた俺．．．ウルトラマンゼロは、

別宇宙で出会った仲間

グレンファイヤー、ミラーナイト、ジャンボットとウルティメイト

フォース・ゼロを結成。

アナザースペース

異世界宇宙の平和を護るため、時に闘い、時に異変が起きていないかパトロールを行っている。

今日も、俺達は別々のポイントをパトロールしている。

このポイント．．．S-53に異常はねえみてえだ。

指を二本立てて前に突き出すと、何かの模様ともとれる文字が虚空に浮かび上がる。

【ウルトラサイン】．．．俺達ウルトラ戦士が通信する時や、伝令を出す際に使われるもので、各々違うサインを持っている。

「こちらウルトラマンゼロ。ポイントS-53、異常なし」

『お疲れ様です。こちら、D-38も異常はありません』

パトロールの結果を報告すると、サインから物腰が柔らかそうな男の声が聞こえる。

通信の相手はミラーナイト．．．惑星エスメラルダに住むエスメラルダ人と鏡の星に住む二次元の民の血を引く鏡の騎士だ。

『あゝ、こちらグレン。C-98も異常なしだ』

『こちらジャンボット。同じく、J-52も異常なし』

ミラーナイトに続くように、気怠げな声と凜々しい声が聞こえる。気怠げな声の主はグレンファイヤー。

炎の海賊の用心棒だったが、カイザーベリアルとの闘いが終わってからは、ウルティメイトフォース・ゼロの仲間として一緒に闘って

いる。

一方の凜々しい声の主はジャンボット  
エスメラルダ王家専用の宇宙船で、ベリアル軍との闘いで出会った  
エスメラルダの姫・・・エメラナを護るといふ使命に忠実すぎる所  
があつた。

あの闘いの後、何を言われたか分からねえが、エスメラルダを出た  
俺に着いてきた。

ちなみに・・・無理やりウルティメイトフォース・ゼロの仲間にし  
たことを悪いと思つてるのは秘密だ。

「そうか。それじゃ、ポイントA・25で落ち合おうぜ」

『了解!』

各々の報告を聞いて集合場所を言うと、3人ともに返事をしてきた。

「さて・・・行くか!」

サインを消し、ポイントA・25に向かって飛ばうとした時

『ゼロ・・・』

「ん?」

俺を呼ぶ声が聞こえ、後ろを振り向くと・・・

「!なんだ・・・うわッ!」

目もくらむような閃光に、俺は包まれた。

「っ・・・なんだっただ・・・?」

あまりの強さに腕で顔を隠したが、光が治まっていき、腕をどかすと．．．俺は、見慣れた暗黒の宇宙ではなく、金色に輝く空間にいた。

此所は．．．確か、知っている。

ベリアルとの戦いの時に、俺は此処に来たことがある筈だ。そう思っている。

『ゼロ．．．』

俺を呼ぶ声が再び聞こえた。

声がる方向．．．後ろを振り返ると

「アンタは．．．!」

そこにいたのは．．．ベリアルとの戦いの時に、俺たちに力を貸してくれた

伝説の巨人．．．ウルトラマンノアだった。

「ウルトラマンノア．．．なんでアンタが．．．」

驚きながら呟く俺を他所に、ノアはある一点を指差す

ノアが指差す方向を見ると、金色の空間が一瞬歪み、暗い宇宙に浮かぶ青い惑星が現れた。

おそらく．．．ノアが見せてくれている映像だろう。

陸地が見えるが、殆どが青い水に覆われた美しい惑星．．．たしか、親父が行った『地球』って星が、あんな場所だって聞いたな。

「あれは．．．地球なのか?」

『お前がいた宇宙とは異なる宇宙．．．そこにある惑星だ。現地名は．．．地球』

地球は一つじゃないのか、と口にしようとしたが．．．星の名前は、そこに住む生命が呼ぶ名前だ。

つまり．．．その星の住人が地球と認識すれば、そこは地球になるってことだろう。

俺は、ノアが何故この映像を見せたのか分からない。

だが．．．どこか、予感めいたものが頭を過った。

「あの星に．．．何かあるのか？」

『．．．侵略者が、あの惑星を狙っている』

．．．地球って名前の星は、宇宙人に狙われやすいのか？

『あの星に．．．いや、あの宇宙に、ウルトラ戦士はいない』

「！」

つてことは．．．侵略され始めたら、手も足も出ねえって事じゃねえか！

その言葉を聞いて、俺は．．．何故ノアがあこの星を俺に見せたかを理解した。

つまり

「俺に．．．あの星に行ってくれって事か」

俺は、ノアが言いたいだろう事を呟きながらノアを見ると、ノアは頷いて肯定した。

．．．．．へっ、ベリアルと戦って、そんなに経ってねえのに大変だな。

だが．．．宇宙の平和を守るのが俺たちウルトラ戦士

そして．．．俺たちウルティメイトフォース・ゼロだ。

「良いぜ．．．あの星は俺が．．．俺たちが護る。だから、連れて行ってくれ！」

俺は、決意を胸にノアに進言した。

だが．．．ノアは、首を横に振った。

『すまない．．．今行けるのはゼロ．．．お前だけだ』

「！なんで．．．」

『イージスを託した事で、私の力は暫く．．．短くても3ヶ月は使えない。こうしてお前に話しかけるのでやっとな．．．』

「だったら、どうやってあの星に行けば．．．」

ノアの言葉を聞いて、俺は俯いて考え始めると．．．

『お前に託したイージスには、異なる宇宙を跳躍する力がある。使えば、暫くはイージスが使えないが．．．お前一人であれば、あの

星へ行く事が出来る』

そう言つて、ノアは俺の左手にあるウルティメイトブレスを指差した。

『お前の仲間は、私の力が戻り次第送る・・・だから・・・』

「・・・ああ、分かった」

ノアの言いたい事は分かった。

ウルティメイトブレスを天に掲げると、俺の体にウルティメイトイージスが装着され・・・ウルティメイト・ゼロへの変身を終える。

「アンタの力が戻るまで、俺が向こうで食い止める」

『・・・すまない』

「アンタが気にする事じゃねえ。むしろ、力を貸してくれたアンタへの借りを返せるんだ」

謝つてくるノアに笑いながら言つと、俺は装着されたウルティメイトイージスに意識を集中する。

それに呼応するように、イージスの各部にあるエネルギークリスタルが一つ、また一つと蒼く輝き始める。

『お前の仲間は・・・力が戻り次第送る』

「ああ、よろしく頼むぜ！」

ノアの言葉に短く返事をすると同時に、エネルギークリスタルの全てが蒼く輝き、俺の体も金色に輝き始める。

(悪いな・・・お前達との合流、遅れるぜ?)

「シユアツ！」

心中仲間に詫びを入れると、俺は・・・異世界宇宙の惑星、地球へと旅立った。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0562z/>

---

ウルトラマンゼロ外伝 無限の宇宙

2011年12月2日00時46分発行